

塩尻市北部交流センター 運営プラン

「こどもがつなぐあたらしいふるさと」を目指して



塩尻市

目次

I 北部交流センターの概要	3
1 北部交流センターの位置づけ	3
(1) 北部地域の地域特性	3
(2) 北部交流センターの役割	3
2 市民交流センター(えんぱーく)との相違点	3
(1) 共通点	3
(2) 相違点	4
(3) それぞれの方向性	4
3 北部交流センターの基本コンセプト	5
(1) 基本コンセプトの目標	5
(2) 基本コンセプトの実現に向けて	5
II 北部交流センターの目指す姿	6
1 地域住民の参画によるセンター運営	6
2 「こども」を中心にした地域のつながり	7
3 北部交流センターの目指す姿	8
III 北部交流センター運営の基本的考え	10
1 地域の「にぎわい」を生み出すためには	10
(1) にぎわいの3要素	10
(2) 日常と非日常のバランス配分による施設のイメージづくり	10
2 事業運営の基本的な考え方	11
(1) 地域住民との連携による運営	11
(2) 「こども」が核となる事業展開を常に意識した運営	11
(3) 発展し、進化を目指す運営	11
3 北部交流センターの運営上のポイント	11
(1) 機能ごとの運営の基本的な考え方	11
(2) 地域住民の「学びの場」としての位置づけ	12
(3) 市民交流センター(えんぱーく)との関係性	13

IV 機能ごとの事業計画	15
1 広丘公民館の事業計画	15
(1) 基本目標	15
(2) 事業計画	15
(3) 他部門等との連携事業	16
2 広丘図書館の事業計画	17
(1) 基本目標	17
(2) 事業計画	17
(3) 他部門等との連携事業	18
3 北部子育て支援センターの事業計画	20
(1) 基本目標	20
(2) 事業計画	20
(3) 他部門等との連携事業	21

I 北部交流センターの概要

1 北部交流センターの位置づけ

(1) 北部地域の地域特性

北部地域は、塩尻市の北側に位置する四つの地区(広丘、吉田、高出の一部及び片丘の一部)で構成され、事業所や企業、大規模店舗が集積し、アパートなどの集合住宅が多く立地するなど、生活の利便性に恵まれていることから、人の流入が多く、年少人口と生産年齢人口の割合が市内の他地区よりも高い傾向にある。

一方で、流入者は比較的若い世代が多いため、自治会などの地域コミュニティとの関係性が希薄で、新旧それぞれの住民の交流が十分に行われているとは言い難い状況にある。

(2) 北部交流センターの役割

北部交流センターは、この地域に伝わる歴史や伝統、文化に基づく相互扶助の関係性、生活文化などを継承し、発展させていくため、新旧や多世代の住民、隣接する自治会、企業や団体などが交流し、新たなコミュニティを形成することで、子ども世代や働き盛りの世代、シニア世代などがともに支えあえる関係性を構築し、先人たちから受け継がれてきた伝統や文化を守りつつ、新しい価値観を創造するための拠点施設として位置付けられている。

また、北部交流センターには、北部地域のコミュニティ形成機能を担うことに加え、広丘地区の地区コミュニティのための支所・公民館機能を担うという二重の役割を備えている。北部交流センターは、「北部地域コミュニティの交流拠点」と「広丘地区コミュニティの交流拠点」という二つの役割を備えた複合施設である。

さらに、建物全般に木材を用い、特に子育て支援センターのプレイルームや図書館の柱には本市の山から切り出した木材を使うなど、木の温もりを感じさせる、木育の一端を担う施設となっている。

2 市民交流センター(えんぱーく)との相違点

北部交流センターは、平成22年7月に大門地区にオープンした市民交流センターとの共通点を持つと同時に、大きく異なる部分も持ち合わせている。

(1) 共通点

① 図書館を中心とした複合施設

図書館を中心に構成する各行政組織の連携と相互補完によって相乗効果を生み出し、複合施設としての機能を発揮

② フリースペース(自由空間)を有効に配置

市民が日常空間の場として過ごしたり、市民活動や地域活動の場として積極的に活用したり、時にはイベント空間としてにぎわいを創出するなど、その機能を最大限に活用

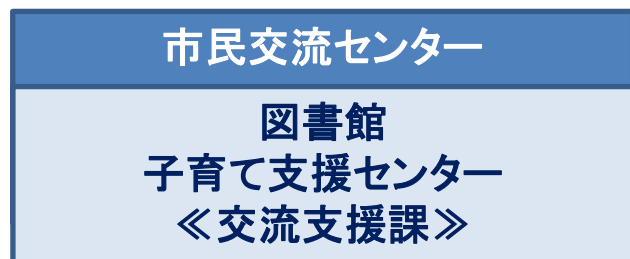
(2) 相違点

- ① 市民交流センターは、図書館、子育て支援センターのほか、市民活動支援を担う交流支援課で構成されているのに対し、北部交流センターは、図書館、子育て支援センターのほか、地域住民の拠り所や活動の要である公民館・支所で構成される。
- ② 市民交流センターは、3階フロア全体にフリースペース（市民サロン）が広がり、貸室を取り囲む形の自由空間となっているのに対し、北部交流センターのフリースペースは、支所・公民館、子育て支援センター、図書館の各機能をつなぐ空間として配置されている。

(3) それぞれの方向性

市民交流センターは、公益活動を担う市民や団体に対する支援が大きな目的の一つであるため、「地域」という枠に捉われず、塩尻市全体を見据えて事業展開を行っている。

対して、北部交流センターは、地域の拠り所である支所と公民館機能を備えているため、地域住民との深い関係性を基軸に、地域に根ざした事業を展開する必要がある。支所、公民館のこれまでの歴史や運営を土台とした上で、100年後もこの地域が生き生きとした故郷であり続けるよう、地域住民自らの活動を支援することが求められている。



北部交流センター

広丘図書館
北部子育て支援センター
《広丘公民館・広丘支所》

■協働による市民公益活動支援

- 塩尻市全体が事業対象範囲
- 市民、市民活動団体、NPO、民間企業などが行う幅広い公益活動が支援の対象
- 人々が集い、交流することで生まれる新たな知恵がもたらす協働のまちづくりを目指す

■市民サロン

- 3階全体が一つの空間として機能し、学習、仕事、趣味など、様々な活動を自由に展開。
- イベント時には各機能を融合し、一体的に活用

■地域コミュニティ活動支援

- 北部地域が主な事業対象範囲
- 地域の歴史や文化を尊重しつつ、地域住民、自治会などが行う地域活動を支援
- 北部地域の住民を中心とした新たなコミュニティによる地域づくりを目指す

■自由通路

- 図書館、子育て支援センター、公民館の各機能をつなげる通路としての自由空間
- イベント時には各機能が占有しつつ、連携しながら活用

3 北部交流センターの基本コンセプト

北部地域は、新たに居住した住民が多く、古くから居住している住民との融和が求められている。北部地域拠点施設建築構想では、地域特性を踏まえ、施設建築における基本コンセプトを設定している。

■基本コンセプト【北部地域拠点施設建築構想より】

多様な住民が確かで豊かな暮らしを営むための コミュニティづくりの場

(1) 基本コンセプトの目標

- 様々な背景や価値観を持つ、幅広い世代の住民が交流する場を提供し、住民同士の活発な活動を育み、安心して暮らすことができるコミュニティの形成を支援する。
- 確かな暮らし、豊かな暮らしを実現するためのコミュニティの形成を促進し、この地域への愛着と誇りを醸成する。

(2) 基本コンセプトの実現に向けて

建築構想では、基本コンセプトの実現に向け、五つの目標と七つの基本機能を設定している。

■五つの目標

- ① 北部地域の住民が、塩尻市民としての自覚・誇りを実感できるシンボルとなること
- ② 北部地域の住民を中心に、市内外から誰もが立ち寄れるオープンな場となること
- ③ 様々な人々が交流することを通じて施設及び北部地域の価値を高めていくこと
- ④ 北部地域住民のコミュニティ創造の拠点となること
- ⑤ 広丘地区の支所・公民館の有する機能を継承・向上させること

■七つの基本機能

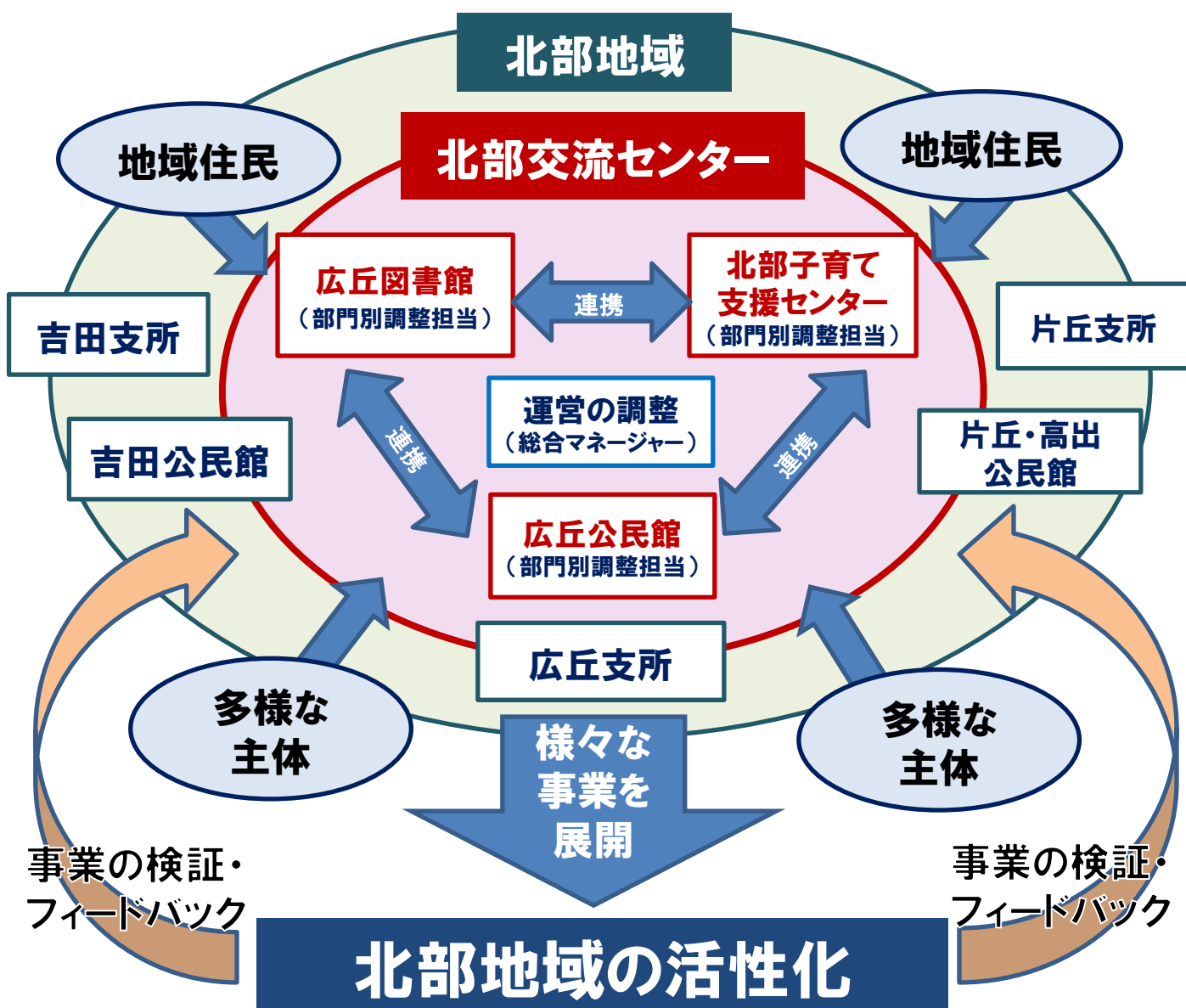
- ① 人が集いつながる
- ② 役立つ情報を提供する
- ③ 意欲と活動を応援する
- ④ 北部地域の課題解決を支援する
- ⑤ 北部地域の価値創造を支援する
- ⑥ まちへの集客・回遊を促進する
- ⑦ 施設自身が進化する

Ⅱ 北部交流センターの目指す姿

1 地域住民の参画によるセンター運営

北部交流センターは、広丘支所、広丘公民館、広丘図書館、北部子育て支援センターの各機能を備える複合施設である。従来の行政の窓口としての役割は広丘支所が担い、事業運営については、それぞれの施設が持つ特性が融和し、有機的に機能する事業を展開し、運営していく。事業運営は総合マネージャーが統括し、各機能ごとの担当者と連携を密にしながら進めていく。

さらに、この地域に根差し生活する人々が、地域内外の多様な主体と共に、北部交流センターの事業運営に携わり、地域のために活動し、この施設を活用し続けていくことで、人々の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、センター自体が進化を遂げていく。

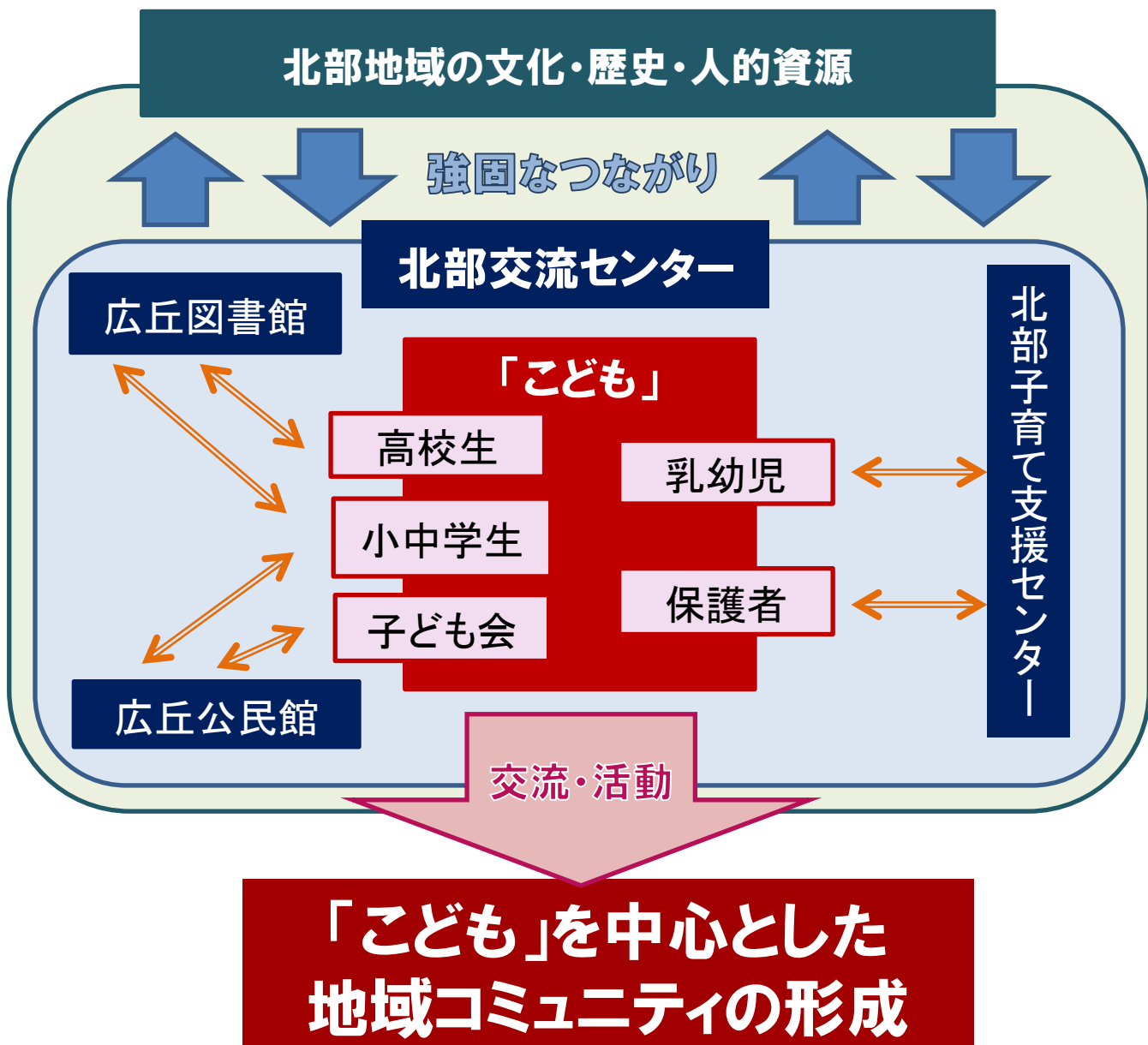


2 「こども」を中心にした地域のつながり

北部交流センターの運営を通じ、人々の安心、安全な暮らしの営みを未来にわたって確保していくためには、この地域の未来を担う子どもたちの存在が重要となる。

北部交流センターは、地域全体で子どもたちを支え、育てていくための中核的施設として、地域の歴史や文化などの先人が築いてきた財産を礎に、子どもたちを中心として、世代や立場を超えた出会いや交流が生まれ、地域のコミュニティを育てていく必要がある。

ここで生まれた様々な活動を通じて、新たに生み出され、つながり、育まれた絆は、子どもたちにとっても、また、彼らを支え育てていく地域住民にとっても、この地域を大切にしたいと願い、誇りに思えるような地域の創造につながっていく。



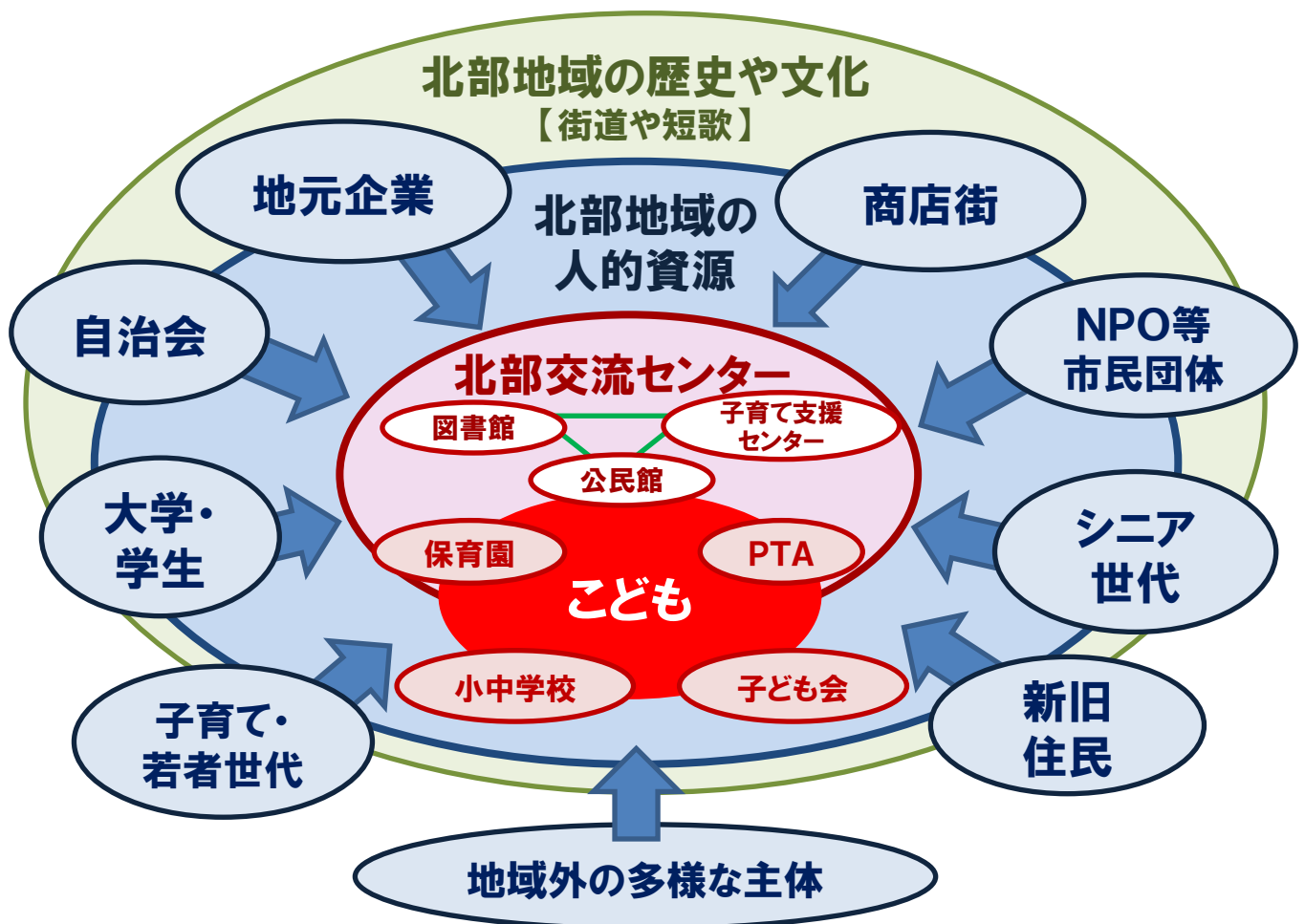
3 北部交流センターの目指す姿

これまで述べてきたように、北部交流センターは、センターが備える各機能を生かしながら、その運営の中心に「こども」を位置づけ、地域住民をはじめ、民間企業、団体などの地域内外の多様な主体による活発な活動を促すことで、地域に住む人々が、この地域への愛着と誇りを醸成し、これまでの価値観にとらわれない新しい「ふるさと」を生み出し、地域の持続可能性を未来にわたって確保する役割を担っている。

このことから、北部交流センターでは、以下の目指す姿を設定する。

■北部交流センターの目指す姿

こどもがつなぐ「あたらしいふるさと」



目指す姿のキーワード

こども

子育て支援センターを利用する乳幼児、図書館や学習スペースを利用する小中学生や高校生、ジュニアリーダーや子ども会で活躍する小中学生、これらの子どもたちの保護者など

つなぐ

子どもを「核」に集まり、つながり、育てることにより、多世代または新旧の住民、民間企業、自治会、大学、市民団体など地域内外の多様な人的資源がつながり、新たな価値観を生み出す仕組み

「あたらしいふるさと」

- ①北部地域に住む人たちが、世代や立場の枠を超えて出会い、交流し、地域に根差した活動を通じて新たなコミュニティが生まれる場
- ②北部地域に住む人たちが、100年後もこの地域に誇りと愛着を持って生き生きと暮らすことができる「ふるさと」

Ⅲ 北部交流センター運営の基本的考え

1 地域の「にぎわい」を生み出すためには

(1) 「にぎわい」の3要素

「日常性」「波及性」「継続性」が生み出されたとき、そこに「にぎわい」がもたらされる。北部交流センターの運営に、このにぎわいの3要素を取り入れることで、地域住民の愛着が醸成され、未来につながる地域づくりにつなげていく。

① 日常性

- ・ 日常の延長のような、日々の営みを想起させる居心地の良い空間づくり
⇒ 人の集まりや滞在を促す

② 波及性

- ・ 新鮮で的確な情報の発信
- ・ 何か新しいことが始まるのではという期待感の想起
- ・ 参加者が充実感を得られる取り組みの積み重ね
⇒ 北部交流センターの魅力を伝播(インフルエンサー・マーケティングを意識)

③ 継続性

- ・ 北部交流センターのみに留まらず、北部地域全体の活性化につながる取り組み
- ・ 地域文化の継承、地域活動の活性化
⇒ 北部交流センターを起点にした、北部地域のコミュニティの発展と継続

(2) 日常性と非日常性のバランス配分による施設のイメージづくり

日常性と非日常性をバランスよく配分し、人々の意識が常に北部交流センターに向けられるようなイメージづくりを意識した取り組み

■ 日常性

地域住民がいつでも気軽に立ち寄れるような、日常空間を意識した居場所づくり

■ 非日常性

公民館活動や季節ごとのイベントなど、普段とは異なる魅力的な集客事業やイベントで非日常性を演出し、多くの住民が参加し、楽しみ、学べる地域の拠り所としての存在感を構築

◆参考文献

にぎわいの3要素…「地方都市を公共空間から再生する」柴田久著 学芸出版社 2017年11月発行

2 事業運営の基本的な考え方

(1) 地域住民との連携による運営

地域活動の担い手は地域住民であることを基本に、センター機能が、地域内外の多様な主体と共に、住民の主体的な活動を支援していくための事業運営

(2) 「こども」が核となる事業展開を常に意識した運営

地域の人々の安心、安全な暮らしの営みを未来にわたって確保していくために、ここで育った子どもたちが、地域への誇りと愛着を育てていくための事業運営

(3) 発展し、進化を目指す運営

センター主体のイベント企画や、地域住民などの手で繰り広げられる様々な活動内容を蓄積し、分析することで、センター機能や活動内容を評価、改善し、センター自体の進化につなげる事業運営

3 北部交流センターの運営上のポイント

地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化が進む現代社会では、身近な地域において、世代間交流による地域の絆づくりや学びの成果を生かした地域づくりを通じて、地域コミュニティの再構築や維持、発展を促すことが重要である。

北部交流センターを構成する公民館、図書館、子育て支援センターの特性を生かすとともに、さらにその機能が融合した運営を行うことで、こどもがつなぐ「あたらしいふるさと」を実現し、基本コンセプトに掲げる目標を達成する。

(1) 機能ごとの運営の基本的な考え方

① 広丘支所は、独立して運営

北部交流センターは、広丘地区、吉田地区、高出地区の一部及び片丘地区の一部を事業対象としているが、明確に区分するものではなく、利用する者に限定は加えない。

ただし、広丘支所では、従来から行っている住民サービスや広丘地区関係業務など、行政の出先機関としての機能は引き続き継続して実施する。

従って、支所業務に関しては、区域が広丘地区に限定されるため、北部交流センター事業とは切り離して運営する。ただし、地域活性化プラットフォーム事業など、地区の枠を超えた連携を行うことにより、広く地域課題解決につながっていく事業は、北部交流センターの機能を生かしながら実施する。

② 広丘公民館は、他区域と連携し運営

公民館事業は、地区住民を対象とした運営という点では支所と同様であるが、支所に比べると運営に関する柔軟性や多様性を持っている。そのため、比較的新しい街並みを多く持つ北部地域は、他地区と連携した公民館活動の必要性が増していることを意識した運営を行う。

③ 広丘図書館は、北部地域の中核的な図書館として運営

図書館は、本来、区域を限定する考え方は持っていない。さらに、これまでの広丘分館から、機能、開館時間などのサービス面に加え、蔵書数を拡充し、本館に次ぐ規模の図書館となる。従って、北部地域における中核的な図書館として、様々な世代の住民に向け、的確な情報提供を行う。

④ 北部子育て支援センターは、北部地域の中核的な子育て支援施設として運営

北部子育て支援センターは、既存の吉田地区センター北側からの移転のため、機能的に大きな変更はない。引き続き、北部地域の子育て支援の中核的施設として、北部あんしんサポートルームと併せて運営する。

(2) 地域住民の「学びの場」としての位置づけ

① 「学びの場」の創出に向けた機能融合

こどもがつなぐ「あたらしいふるさと」を創造し、100年後を見据えた地域づくりを支えていくためには、地域住民の「学び」が大切であり、北部交流センターはそのための「学びの場」でもある。地域住民のつながりを深め、「学び」を地域課題解決につなげていくことで、持続可能な「あたらしいふるさと」を創造することができる。

学びの場の創出には、公民館、子育て支援センター、図書館の三つの機能の利点を最大限発揮させる機能融合が求められる。

今後の地域における「学びの場」は、生後3か月の乳幼児から100歳を超えるお年寄りまで、地域のあらゆる住民が集い、学び、交流する場であることが重要である。

② 多様な主体の参画

「学びの場」の創造には、人を引き付ける工夫が求められるため、北部交流センターが持つ機能以外にも、市民団体、大学、民間企業など、北部地域内外の多様な主体が参画し、多くの地域住民に学びを提供できる機会を提供する。

③自由空間の有効活用

各施設間を結ぶ自由空間は、通路としての機能を持つと同時に、誰でも自由に利用できる空間となっている。

様々な人々が目的なく居合わせることができる、日常の延長としての自由空間は極めて重要であり、普段からの適正な管理と同時に、イベントなどで非日常を演出する工夫が必要である。イベント開催時などを中心に、各施設が占有しつつ相互に連携するなど、柔軟な対応を目指す。

(3) 市民交流センター(えんぱーく)との関係性

①市民交流センターの機能融合の手法を導入

市民交流センターは、図書館を中心とした複合施設として、平成22年の開館以来、順調に来館者数を伸ばし、平成29年度は過去最高の延べ688,076人を記録した。

市民交流センターでは、「図書館」「シニア活動支援」「子育て支援・青少年交流」「ビジネス活動支援」「市民活動支援」の五つの重点分野を定め、それぞれの分野が個々に機能を発揮すると同時に、相互に連携し、相乗効果を生み出す事業も展開している。加えて、図書館、子育て支援センター、交流支援課の三つの部署による連携事業を行うなど、機能融合を効果的に展開することで、利用者の満足度が向上し、リピーターの確保につながっている。

このように、市民交流センターが積み上げてきた機能融合による事業運営のノウハウを、北部交流センターの運営に導入していく。

②人材育成と新たな交流の場の創出

市民交流センターは、市民公益活動支援による協働のまちづくりを大きな目標に掲げているのに対し、北部交流センターは、地域活動支援による地域コミュニティの活性化を大きな目標としている。

支援の対象と目標にこそ違いはあるものの、活動の担い手の育成という根幹の目的は共通しているため、市民交流センターで培ってきた「人づくり」の手法を積極的に取り入れていくこととする。

さらに、北部交流センターが北部地域に立地することで、地域活動の担い手と市民公益活動の担い手による交流の機会が生まれるなど、市民交流センターとの相乗効果が見込まれる。

二つの交流センターの展開による新たな知恵の創造が期待される。

③それぞれの交流センターの特徴を生かした事業展開と相互補完

市民交流センターと北部交流センターは、立地条件、建物の規模、目指す方向性などに違いは見られるものの、共に市民や団体、地域住民が自主的な活動を行うための拠点施設であることには変わりはない。

それぞれが持つ機能を最大限発揮し、互いに相互補完し合いながら運営を進めることで、地域の活力の維持と、本市の持続可能性を高めていくことが可能となる。

IV 機能ごとの事業計画

北部交流センターの運営にあたり、それぞれの個別の機能については、基本的な方針に基づき事業展開を図る必要があるため、機能ごとの事業ビジョンを設定する。

1 広丘公民館の事業計画

(1) 基本目標

世代を超えた地域住民の交流、自主的な活動の支援による地域の活性化

- ① 多くの人々の利用を促進し、相互交流を高め、情報発信拠点として地域形成に貢献する。
- ② 地域住民の自主活動の場として、その利用をアピールし、促進することで地域活動の活性化を図る。
- ③ 世代を問わず、ゆつくりと滞在できる施設として愛着を持っていただくと共に、生活の拠点として地域との密着度を高めることで地域活性化を図る。

(2) 事業計画

① 人が集いつながる

複合施設としての利点を生かし、様々な世代の住民が相互に交流し連携するための新たな事業展開を図る。

ア 多様な団体の利用を可能とするとともに、学びのカフェなどの公民館事業の場を通じて利用者同士の交流を活発にし、お互いに刺激し合うことで、地域全体の活性化を図る。

イ 子どもから高齢者まで幅広い世代の利用を促すため、子どもを中心とした事業を展開し、利用者間の交流機会を高める。

② 役立つ情報を提供する

地域住民が豊かな生活を送るために役立つ情報を収集し、迅速かつ適正に提供する。

③ 意欲と活動を応援する

自主活動団体の活動の拠点施設としての位置づけを明確にし、団体による施設利用を積極的に促すことで、活動の活発化と地域の活性化につなげる。

④ 北部地域の課題解決を支援する

- ア 住民自らの課題解決に向けた学習機会を提供し、住民交流の場を形成することで、自立的なコミュニティの形成を促す。
- イ 地域の福祉避難所としての観点から、防災や福祉に関する学習機会を設け、地域の防災体制の強化を果たす。

⑤ 北部地域の価値創造を支援する

- ア 地域に根ざした歴史やトレンドの紹介、体験の機会を設け、参加者の関心を高めるとともに、住民の主体的な活動を支援することで、地域性の確立を目指す。
- イ 地域主催のイベントに参画することで、地域への愛着形成を促す。

⑥ 施設自体が進化する

常に新しい試みに挑戦し、時流に即した活性を発展、維持するために、施設として今あるべき姿と将来的な展望を、多様な主体と共に協議する機会を持つ。

(3) 他部門等との連携事業

① 広丘図書館との連携

複合施設ならではの事業内容を充実させ、事業に関連した情報発信を行い、参加者や利用者同士のコミュニケーションの機会創出を図る。

- ア 公民館講座会場内に関連図書スペースを設置
- イ 公民館講座の開催前後にテーマに沿ったコーナーを設置
- ウ 学びのカフェや公民館講座で読み聞かせや出張図書館を開催
- エ 広丘図書館を会場にした公民館講座を開催

② 北部子育て支援センター及び北部あんしんサポートルームとの連携

- ア 公民館利用者と子育て支援センター利用者の世代間交流を促す事業を実施
- イ 未就園児親子向け子育て支援事業を開催
- ウ 子育て中の家庭向けの講座を開催

③ その他の連携

- ア 他部門や地域住民と連携し、広丘地区文化祭や北部交流センター全館でのイベントを開催
- イ 他部門と連携し、子育て支援事業を実施
- エ 他部門や短歌館と連携し、短歌に関する事業を実施
- オ 中央公民館や吉田公民館との連携による北部地域を対象とした事業の実施

2 広丘図書館の事業計画

(1) 基本目標

多様な住民のニーズに応え、活動に役立つ情報を提供できる図書館

- ① 幼児から高齢者まで多様な市民ニーズに応え、気軽に立ち寄れるとともに、子育て世代と地域コミュニティの間で交流が生まれる図書館
- ② 訪れた誰もが、必要な情報にたどりつけ、悩みの解決に役立つヒントが見つかり、新しい世界に出会える図書館
- ③ 多種多様に展開する生活や仕事、学習等の活動を広げ、まちづくりに参画する意欲や活動につながるような機会を提供する図書館
- ④ 本館・分館、学校図書館や短歌館、博物館、関係機関、諸団体との連携により、課題解決に役立ち、短歌の里をはじめとした地域の文化資源を生かして、新たな価値を提供する図書館

(2) 事業計画

① 人が集いつながる

ア 開館日を週6日(月曜日休館)、開館時間を9時間30分(土・日・祝日は8時間30分)とする。

イ 蔵書収容能力を27,000冊とする。

ウ 定期的なお話会やイベントを開催する。

② 役立つ情報を提供する

ア 児童書を全体の3分の1とし、子育て世代のニーズに応えうる選書・収集を行う。

イ 子育てに役立つ資料を提供する。

ウ 学習・研究等に利用できる実用書を充実させる。

エ シニア向け資料や視聴覚資料は入替え等を行い新鮮な書架作りに努める。

オ 新聞や雑誌を増やすことで新しい情報の提供に努める。

③ 意欲と活動を応援する

ア 類似の情報が入手しやすいよう、別置や混配を積極的に取り入れた配架に努める。

イ テーマコーナー等を積極的に作り新鮮な書架作りに努める。

ウ 施設内をはじめ地域のイベントや企画にあわせた資料提供や情報発信を行う。

④ 北部地域の課題解決・価値創造を支援する

ア 短歌・短歌館コーナーを設置するなど地域の文化資産の情報を収集・発信し、活用を促す。

イ 地域の様々な課題解決に役立つ資料を収集・提供し、レファレンスサービスの向上を図る。

⑤ まちへの集客・回遊を促進する

ア 短歌の里広丘をはじめとしたまちの魅力を発信し、利用者のまちへの回遊を促す。

イ 短歌館の資料を図書館で検索できるようにし、情報発信を行うことで短歌館等への誘導を行う。

⑥ 施設自身が進化する

ア 利用者の多様なニーズの把握に努め、発想と挑戦により常に新しい機軸を生み出せる図書館を目指す。

イ 利用者の意見や提案を把握し、資料の収集・提供を始め図書館サービスの改善を行う。

(3) 他部門等との連携事業

① 北部子育て支援センター及び北部あんしんサポートルームとの連携

ア 北部子育て支援センターでの定期的なお話会を開催

イ 母親向けのお話会や読み聞かせ講座を開催

ウ 絵本や育児に関する資料の収集、提供

エ テーマコーナー等による情報発信

② 広丘公民館との連携

ア 学びのカフェ等でお話会や出張図書館を開催

イ 公民館事業やイベントに関する資料の収集、提供

ウ テーマコーナー等による情報発信

③ その他の連携

ア 他部門や地域住民と連携し、北部交流センター全館でのイベントを開催

イ 他部門や短歌館と連携し、短歌に関する講座やイベントを開催

ウ 商店街と連携し、交流会や講座を開催

■ 基礎資料(平成29年度広丘分館の状況)

(1) 蔵書数 11,319冊

(内訳 一般書 5,834冊 児童書 4,958冊 郷土 367冊 紙芝居 160冊)

(2) 利用者数 7,864人

(3) 世代別利用者数

0～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳
683人	1,251人	67人	26人	48人

23～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳～
205人	942人	1,443人	1,035人	2,164人

(4) 貸出冊数 44,416冊

(内訳 一般書 16,165冊 児童書 18,770冊 雑誌 2,724冊 視聴覚 201冊 団体6,556冊)

(5) 行事

行事名	回数	参加人数		
おはなし会	11回	一般 143人	児童 136人	合計 279人
工作	2回	一般 92人	児童 465人	合計 557人
その他	1回	一般 25人	児童 33人	合計 58人
計	14回	894人		

3 北部子育て支援センターの事業計画

(1) 基本目標

子育て中の家庭のために、子育ての負担や不安の軽減を図り、子どもの健全な育ちを支えるとともに、子育ての喜びが分かち合えるよう、寄り添い支え合う支援を実施

- ① 人と人、利用者と地域がつながりを持ち、地域住民との交流を通して一人ひとりの子どもが大切に健やかに生まれ、心豊かな生活が送れる地域の創造を目指す。
- ② 子育て支援センターが、地域の援助者と子育て家庭をつなぐ架け橋となり、子育て中の親子の孤立を防ぐと共に、可能性や成長する力を導き出し、安心して子育てができる環境づくりを目指す。
- ③ 育児に必要な情報を収集し、適正に発信することで、利用者の利便性及び満足度の向上を目指す。
- ④ 北部子育て支援センターが広丘地区に移転することで、広丘地区の利用者の増加が期待できることから、住民のさらなる交流の促進を図り、地域のつながりを深める。
【参考：堅石・郷原・原新田地区の利用状況(別図1)】

(2) 事業計画

① 人が集いつながる

子育て中の家庭のために、子育ての不安軽減や子どもの健全な育ちと地域子育て力の育成を目指し、幅広い支援を実施する。

- ア 子育て世代や地域住民を対象とした、子育てに関する講座・研修会等を開
- イ 命の学習をはじめとした、小・中学生、高校生等との交流や、学生ボランティアの受け入れ等による次世代の育成
- ウ ファミリーサポートやお出かけ支援センターなど、地域の子育て力を高める取り組みを実施
- エ 地域のボランティアとの連携による「子育てサロン」への訪問支援
- オ 地区民生児童委員との連携による子育て世帯への支援
- カ 幅広い世代を対象としたイベントの開催

② 役立つ情報を提供する

子育てに必要な情報の提供を行い、子育ての喜びを感じられる支援につなげる。

ア 子育て支援センター通信「ぽかぽか」の発行(月1回)

イ 2カ月相談時に支援センターの利用情報を提供

③ 意欲と活動を応援する

子育てを通して様々な人との出会いや交流が広げられる場や機会の提供を行い、利用者自らが育児を通じて生きがいを見出せるような環境づくりを行う。

ア 子育てサークル等の育成及び支援

イ 父親子育てグループの活動支援

④ 北部地域の課題解決・価値創造を支援する

関係機関、諸団体、地域の人々との連携を深め、地域の子育て力の強化と子育て中の親子の孤立や不安の軽減を図り、この地域の未来を担う人材の育成につなげる。

⑤ 施設自身が進化する

子育ての輪が地域に根付き、地域ぐるみで子育てができる環境を整えることで、共に歩み、地域に根差した子育て支援センターを目指す。

(3) 他部門等との連携事業

① 広丘図書館との連携

ア 図書館司書による定期的なお話会の実施

イ プレイルームや子育て講座等で関連書籍や保護者向けの図書を提供

ウ 図書館司書による保護者への絵本の紹介

② 広丘公民館との連携

公民館で開催される講座を通じた子育て支援センター利用者との交流

③ 北部あんしんサポートルームとの連携

保護者へのきめ細かなサポートを行うことで、子育て世帯が抱える不安軽減を図る

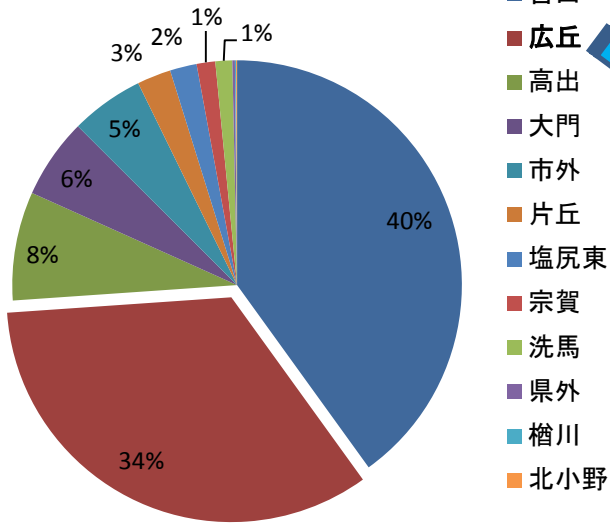
④ その他の連携

ア 他部門との連携による家庭への個別訪問

イ 他部門や地域住民と連携し、北部交流センター全館でのイベントを開催

ウ 他部門や短歌館等と連携した子育てと短歌のまちの融合事業

別図1

H29年度北部子育て支援センター
地区別利用者数H29年度北部子育て支援センター
広丘地区地区別利用者数